

見張り塔から

メディアの今



専修大教授・山田健太さん

反ヘイトスピーチ法が施行され一年が経過した。法制定をきっかけに良い方向に向かっていることもある一方、残された課題も多い。

法の規制対象が限定されていることもあり、社会全体の「ヘイト」状況は残念ながら改善されたとはいえない。例えば、いわゆる沖縄差別は琉球処分以来、日本社会が抱える大きな問題であるが、ここ二年ほど「沖縄ヘイト」といふべき、反基地運動や沖縄メディアに対する誹謗中傷が顕在化している。

一時の嫌韓・反中ブームと似ており、大手出版社による嫌中本が続々刊行され、売り上げを伸ばしていることされ

る。とりわけこうした大手メディアの扇動的差別報道が、法制定後に継続しているところかむしろ悪化している事実も、法の趣旨が社会全体に浸透していないことを表している。

ヘイト表現に対し、刑事罰による直接規制や集会等の事前規制を求める声がとりわけ当事者から強いことを承知している。懲罰効果は強いものの、こうした行政による一律・直截・包括的な表現規制はもろ刃の剣であって、恣意的な表現規制の手段として悪用される懸念が拭えない。しかも日本の場合、特定の表現

行為(例えば人種差別表現や宗教的侮辱表現)を、社会の基本的構造を破壊する行為として、初めから表現の自由の

土俵から除外することをしてこなかった。

これは、例外を設けるとそれを足がかりとして言論表現の自由がことごとく奪われた戦時中の反省からである。それだけに、まずは「その他」の手段を最大限活用して、平

等社会の実現をめざすことが必要だ。

二〇一六年には国内の差別撤廃のために、他に二つの法が施行されていることにも関心を向ける必要がある。障害者差別解消法と部落差別解消法であって、いずれも日本社会に根強く残る一般市民間の差別意識の発革を、制度面から求めるものだ。せつかくこのような差別禁止法が整備さ

れつつあるにもかかわらず、この運用をきちんと監視する制度保障がないのが日本の弱みだ。

このチェックシステムの欠如は、秘密保護法でも共謀罪でも問題とされてきているが、政府も国会も本気で取り

組む気がないばかりか、むしろ政治家も官僚もそうした運用を忌避することに熱心だ。この点で、多くの国で採用されている、独立した地位で日常的な行政のありさまや時には立法政策の不備を含めて監視する、オンブズマン制度の導入は有力な選択肢になりえよう。

さらには、反ヘイト法の制定をきっかけに実態調査が実

ヘイトスピーチを巡る最近のトピックス

- 2016・5・30 神奈川県、愛知県がヘイト団体に施設を貸さないとの発言。
- 6・2 横浜地裁、川崎支部がヘイトデモ禁止仮処分申し立てに対し、接近禁止命令。
- 6・3 反ヘイトスピーチ法施行。
- 6・5 川崎市のヘイトデモに、警察が主催者に中止を求めよう説得。川崎市は当初の公園利用申請を認めず。
- 8・1 法務省人権擁護局がヘイトスピーチ行為に警告。
- 10・1 江戸川区が施設予約システム利用者規約を反ヘイト法規定の行為を行う場合は承認しないよう改正。
- 10・18 大阪府警の機動隊員

権救済機関の設置である。安・簡・早と呼ばれる安上がりで手間をかけることなく迅速な解決手段を、司法救済とは別に社会制度として整備することが求められている。

こうした制度が、インターネット上のヘイトスピーチに

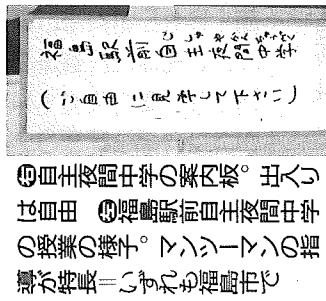
も、契約を根拠にした効果的な対応を可能とするであろう。そして、何よりも、政治家等の公的立場の差別を助長するような表現や行動を、厳しく戒める動きを持つことになる。期待される。

(毎月第二火曜日掲載)

日々論々

さまざまな事情で義務教育を修了できなかった人のための学びの場、自主夜間中学が福島にもある。「自主」と付くのは、元教員などのボランティアが手弁当でつくり上げ、続けている私塾だからだ。学校法人「加計学園」の獣医学部新設問題で「行政がゆがめられた」と訴えている前川喜平・前文部科学省事務次官も、ここに通ったボランティアの一人だった。何を求めたのか。筆を操り、授業の様子を見せてもらった。

はず8年目



①自主夜間中学の案内板。出入りは自由 ②福島駅前自主夜間中学の授業の様子。マンツーマンの指導が特長。いずれも福島市で

びかけたのが、きっかけとなった。

自主夜間中学は月に四回。授業料は無料。東日本大震災があっても途切れず、生徒は二十人ほどに増えた。

この小さな私塾に、思いもよらぬ「贈り物」があった。

前川氏の講演「夜間中学と日本の教育の未来」を東京で聞いた大谷さんが「ぜひ、福島でも」と直談判した。前川

たのは渡辺宏司さん(せむ)だった。

「講演の内容がさっぱり理解できなかったと話したら、一緒に新聞を読みながら解説してくれたんだよ。偉ぶるところのない、温厚な人だったな」

渡辺さんは、中学を卒業したものの、自動車染色工になるために高校進学を断念したことを今も悔いている。生徒の中には、そんなお年寄りが多い。

この後、週に回すつ合計一回つとつとつと前川氏

東北 復興日記



J.A.共済総合研究所研究員 大友和佳子さん

▶▶▶ 220

東日本大震災をきっかけに、私の故郷の宮城県名取市では地域づくりの取り組みがいくつも生まれました。三、四十歳代を中心に名取の「固有の宝」を見つけて次世代に引き継いでいく「名取の宝

上のカレイ、増田のセリ、下増田のホウレンソウなど、地域の名産を使った料理を、生産者の紹介も交えて伝える会合を実施しました。

一六年からは、戦前の名取市の特徴を知るため、九十歳以上の人に当時の暮らしや働き方などを

